

学童期の子どもに対する母親の意識について

Survey study of mothers' consciousness of their school-aged children

原崎 聖子*
Seiko Harasaki

篠原しのぶ**
Shinobu Shinohara

彌永 和美***
Kazumi Iyonaga

渡邊 晴美*
Harumi Watanabe

* 福岡女学院看護大学 ** 福岡女学院大学 *** 活水女子大学

I. はじめに

我々は2003年より、ブックスタート経験とその後の子育て及び子どもの生活との関連性について、縦断的に意識調査を継続している。

そもそもブックスタート運動は、1992年に英国バーミンガム市で始められ、わが国においても2000年の「子どもの読書年」推進会議で紹介されその後急速に広がり、2016年8月31日現在、全国969市区町村で実施されている（2016年9月30日現在NPOブックスタート調べ）。

ブックスタートは、保護者へ絵本についての説明をした後、実際に絵本を提供し利用してもらうことで「保護者と赤ちゃんが、絵本を介してゆっくりと心ふれあうひとときを持つきっかけをつくる」ことが目的である（ブックスタート（編）2010）。またこのことは、乳幼児期の育児に戸惑う保護者に対して、子育て初期に絵本を有効活用することで育児への不安を少しでも軽減するという子育て支援としても大いに期待されている。

福岡県小郡市では、市立図書館を中心に他機関との協力のもと2003年9月の10ヶ月健診時にブックスタートを開始した。また、同時にブックスタートに関連して、「本に関する質問」「子どもの日常生活」、そして「親の子育て」についての調査も進められた。福岡女学院は2003年より小郡市のブックスタート事業に継続して協力しており、特に2009（平成21）年10月には「ブックスタート調査に関する基本協定書」を締結し、データの集計、分析および研究成果の発表を担当することとなった。

そして、これまで縦断的に10ヶ月、18ヶ月、

37ヶ月、就学前の健康診断期には保護者から、そして学童時に入った小学3年時及び小学6年時には保護者だけではなく児童からも日常生活に関する回答を得て、保護者が受けたブックスタートの影響が子どもや家族のその後の日常生活や親の子育て観にどのように現れるかという点を中心に検討を進めてきた。

その結果、親の子育て観は子どもが小学6年生になった時点でも「保護者がゆったりとした気分になれる」「子育てによって自分が成長している」などブックスタートを受けた親の得点が有意に高くなっていったが（原崎他、2016）、子どもの日常生活との関係では、小学3年時まで「本をもらうとうれしい」など本に関する項目や「おうちの手伝いをするのが好き」などの項目で親がブックスタートを受けた群の児童が有意に高かった（原崎他、2012）のに対して、小学6年時においては親のブックスタート経験による子どもの読書活動や日常生活の差はほとんど見られなくなっていた（原崎他、2016）。

そこで我々は、その理由を探るために、分析の観点を、ブックスタートの影響から学童期の発達に変えて「子どもの日常生活」について子どもの回答を比較したところ、6年児は3年児に比べてマンガやゲームに関わる時間が多くなり、また、家で手伝いや家族との外出を楽しんでいる割合が少なくなっていた（原崎他、2015）。

つまり、学童期中期の3年生と学童期後期6年生ではその生活実態や家族、親子の関係性が変化する時期ではないかということが考えられた。

実際、「年齢に伴う社会化過程の変化」（柳（1974、上田（1996）引用）の表によれば主な人間関係とし

て小学校中期までは「父母」の存在が見られるが、小学校後期では「父母」に代わって「同姓の友人」が登場している。

したがって、この時期、友人の影響が大きくなり親の影響力が減少していることが考えられる。

一方、家族、特に母親は、この現象をどのように受け止めているのであろうか。上田によると乳幼児期に比べて学童期は親の子どもに対する身体的保護の必要性はかなり減少し、一緒にいる時間は少なくなるにもかかわらず、子どもにとってその存在価値は変わりないと述べ、母親は依然として子どもの世話に時間を掛け、欲求により早く反応するとも書かれている（上田, 1996）。

しかしながら、子どもの人間関係が親から友人へと移行する学童期後期までも親自身は子どもとの距離を維持し続けるのであろうか。

そこで、今回の研究目的は母親の意識に着目して「子育て観」や親の目から見た「子どもの日常生活」が、小学3年時と小学6年時ではどのように異なるのかということを検証することとした。また、家庭内での様子を検討するために、子どもの性別での比較、父親の意識との比較についても検討し、母親の学童期の子育て観について考察を進めるとともにブックスタート体験との関係について言及することとする。

II. 研究方法

1. 調査対象 福岡県小郡市内5つの小学校の3年生及び6年生の保護者で、回収数2478（3年時1248、6年時1230）の内、回答者が母・父以外のもの及び不備のあったものを除いた。実数は以下の通りである。

3年生 母親 計1002名、父親 計44名
 6年生 母親 計968名、父親 計41名
 尚、いずれも同一5校で実施されたが転校、転入生があり対象者の全てが同一ではない。

2. 調査方法 質問紙調査法（縦断的調査）。

3. 調査期間 調査期間は2011年5月～2015年6月である。各学年を以下の通り2期に渡って実施した。

3年生 2011年5月、2012年5月

6年生 2014年6月、2015年6月

- 4. 調査手続** 配布及び回収は福岡県小郡市主導で実施され、各学校宛に学校長、担任宛の依頼文並びに保護者への調査依頼文と質問紙が郵送された。児童は各クラスで渡された調査依頼文と質問紙を持ち帰り、保護者が記入後学校へ持参し回収された。回収された質問紙は個人が特定できないように小郡市図書館にてナンバー化された。
- 5. 質問内容** 質問21項目は2003年のブックスタート調査開始時に、東京杉並区および北海道恵庭市の調査内容を参考に作成したもので「子どもの日常生活について」10問、「子育て観」について11問である。
- 6. 評定尺度** 質問は5段階評定で5:「非常にそう思う」～1:「まったくそう思わない」となっている。
- 7. 分析方法** SPSS Statistics for Windows(ver.23)使用。統計解析「対応のないt検定」により有意確率、度数、平均値、標準偏差を算出した。
- 8. 倫理的配慮** 本研究は福岡女学院看護大研究倫理委員会の承認を得たものである（No. 16-6）。

III. 結果

1. 子どもの年齢による比較

1) 子どもの日常生活について

表1 子どもの日常生活についての母親の意識(学年比較)

| 項目 | 学年 | 度数 | 平均値 | 標準偏差 | t | 有意確率(両側) |
|----------------------|----|------|------|-------|--------|----------|
| 学校での出来事をよく話す | 3 | 1000 | 3.85 | .928 | -.019 | n. s. |
| | 6 | 966 | 3.85 | 1.002 | | |
| 親子でよく会話をする | 3 | 1001 | 4.05 | .795 | -.435 | n. s. |
| | 6 | 968 | 4.06 | .847 | | |
| お手伝いをよくしてくれる | 3 | 1001 | 3.34 | .969 | -.809 | n. s. |
| | 6 | 968 | 3.37 | 1.020 | | |
| 家族で外出することを好む | 3 | 1000 | 3.97 | .936 | 4.005 | *** |
| | 6 | 967 | 3.80 | 1.010 | | |
| 親の行動に興味を持っている | 3 | 1000 | 3.83 | .879 | 3.275 | ** |
| | 6 | 967 | 3.69 | .937 | | |
| 弟妹や小さい子どもの面倒をよく見てくれる | 3 | 994 | 3.60 | 1.043 | -.333 | n. s. |
| | 6 | 959 | 3.61 | 1.104 | | |
| 天気の良い日は戸外で良く遊ぶ | 3 | 1001 | 4.04 | .961 | 7.008 | *** |
| | 6 | 968 | 3.72 | 1.088 | | |
| 友達をよく家に連れてくる | 3 | 998 | 3.30 | 1.139 | 3.938 | *** |
| | 6 | 965 | 3.09 | 1.136 | | |
| いろいろな本をよく読んでいる | 3 | 999 | 3.26 | 1.103 | .411 | n. s. |
| | 6 | 965 | 3.24 | 1.515 | | |
| よく勉強をしている | 3 | 999 | 3.05 | 1.006 | -2.145 | * |
| | 6 | 966 | 3.15 | 1.040 | | |

t検定 *P<.05 **P<.01 ***P<.001

母親が捉えた子どもの日常生活の学年差を、表1に示す。これによると有意差が見られる項目が5項目あり、3年時が高い項目は0.1%水準で「家族での外出を好む」「戸外で遊ぶ」「友だちを家につれてくる」、1%水準で「親の行動に興味を持つ」であった。また、6年時が高い項目は5%水準で「よく勉強をしている」であった。

母親は3年時では6年時に比べて、戸外で遊び、家族との時間を好み、親の行動に興味を持つなど家族や親との距離が近いと感じている。また、6年時は3年時よりも勉強に力を入れていると感じている。

2) 子育て観について

母親の子育て観についての学年差を、表2に示す。これによると有意差が見られる項目が4項目あり、3年時が高い項目は1%水準で「子育てでくたくたになる」、5%水準で「子どもに感情的に接してしまう」であり、6年時が高い項目は0.1%水準で「子どもをうまく育てている」、1%水準で「子どもがいることで生活にゆとりを感じる」となっていた。

子育てに関して母親は6年時より3年時にストレスを感じ、6年時には満足感やゆとりを感じている。

表2 子育てについての母親の意識(学年比較)

| 項目 | 学年 | 度数 | 平均値 | 標準偏差 | t | 有意確率(両側) |
|---------------------------|----|------|------|-------|--------|----------|
| 自分は子どもをうまく育てていると思う | 3 | 992 | 2.77 | .786 | -3.810 | *** |
| | 6 | 964 | 2.90 | .821 | | |
| 子どもの寝顔をみてかわいいと思う | 3 | 1001 | 4.73 | .534 | 1.876 | n. s. |
| | 6 | 967 | 4.68 | .598 | | |
| 子育てで、どうしたらいいかわからなくなることがある | 3 | 1001 | 2.90 | .944 | .295 | n. s. |
| | 6 | 967 | 2.89 | .963 | | |
| 子どもは結構一人で育っていくものだと思う | 3 | 1000 | 2.79 | .865 | .528 | n. s. |
| | 6 | 967 | 2.77 | .951 | | |
| 自分一人で子育てをしているという圧迫感を感じる | 3 | 998 | 2.09 | .903 | .273 | n. s. |
| | 6 | 964 | 2.08 | .916 | | |
| 子育てによって自分が成長していると感じる | 3 | 999 | 3.88 | .947 | -1.073 | n. s. |
| | 6 | 967 | 3.92 | .936 | | |
| 子どもを育てるために我慢ばかりしている | 3 | 998 | 2.23 | .736 | 1.057 | n. s. |
| | 6 | 966 | 2.19 | .768 | | |
| 子どもがいることで、生活の中にゆとりを感じる | 3 | 996 | 3.14 | .998 | -2.871 | ** |
| | 6 | 966 | 3.27 | 1.002 | | |
| 子育てで毎日くたくたになる | 3 | 1001 | 2.47 | .867 | 2.732 | ** |
| | 6 | 967 | 2.36 | .899 | | |
| 子どもに感情的に接してしまう | 3 | 998 | 3.07 | .838 | 2.479 | * |
| | 6 | 966 | 2.98 | .839 | | |
| 毎日はりつめた緊張感がある | 3 | 998 | 1.84 | .789 | 1.252 | n. s. |
| | 6 | 968 | 1.79 | .777 | | |

t検定 *P<.05 **P<.01 ***P<.001

2. 子どもの性別による比較

1) 子どもの日常生活について

学年別に、母親が捉えた子どもの日常生活の男女差を表3に示す。これによると3年時の日常生活項目では「家庭での会話」「手伝い」「家族での外出」「弟妹の面倒」「勉強」など10項目中8項目が0.1%

表3 子どもの日常生活についての母親の意識(男女比較)

| 項目 | 性 | 3年時 | | | | | 6年時 | | | | |
|----------------------|---|-----|------|-------|--------|----------|-----|------|-------|--------|----------|
| | | 度数 | 平均値 | 標準偏差 | t | 有意確率(両側) | 度数 | 平均値 | 標準偏差 | t | 有意確率(両側) |
| 学校での出来事をよく話す | 男 | 513 | 3.69 | .933 | -5.564 | *** | 489 | 3.62 | 1.032 | -7.287 | *** |
| | 女 | 484 | 4.01 | .895 | | | 474 | 4.08 | .915 | | |
| 親子でよく会話をする | 男 | 513 | 3.95 | .794 | -4.226 | *** | 490 | 3.93 | .855 | -5.116 | *** |
| | 女 | 485 | 4.16 | .785 | | | 475 | 4.20 | .817 | | |
| お手伝いをよくしてくれる | 男 | 513 | 3.13 | .941 | -6.857 | *** | 490 | 3.26 | .995 | -3.381 | ** |
| | 女 | 485 | 3.55 | .956 | | | 475 | 3.48 | 1.034 | | |
| 家族で外出することを好む | 男 | 512 | 3.80 | .978 | -5.891 | *** | 490 | 3.65 | 1.064 | -4.601 | *** |
| | 女 | 485 | 4.15 | .857 | | | 474 | 3.95 | .928 | | |
| 親の行動に興味を持っている | 男 | 513 | 3.67 | .870 | -5.890 | *** | 490 | 3.54 | .931 | -5.195 | *** |
| | 女 | 484 | 3.99 | .862 | | | 474 | 3.85 | .918 | | |
| 弟妹や小さい子どもの面倒をよく見てくれる | 男 | 510 | 3.45 | 1.036 | -4.619 | *** | 487 | 3.46 | 1.080 | -4.456 | *** |
| | 女 | 481 | 3.75 | 1.032 | | | 468 | 3.77 | 1.109 | | |
| 天気の良い日は戸外で良く遊ぶ | 男 | 513 | 4.04 | 1.006 | -.140 | n. s. | 490 | 3.84 | 1.082 | 3.574 | *** |
| | 女 | 485 | 4.05 | .915 | | | 475 | 3.60 | 1.083 | | |
| 友達をよく家に連れてくる | 男 | 512 | 3.37 | 1.168 | 1.933 | + | 487 | 3.11 | 1.138 | .563 | n. s. |
| | 女 | 483 | 3.23 | 1.107 | | | 475 | 3.07 | 1.137 | | |
| いろいろな本をよく読んでいる | 男 | 511 | 3.11 | 1.111 | -4.455 | *** | 489 | 3.01 | 1.133 | -6.225 | *** |
| | 女 | 485 | 3.42 | 1.076 | | | 473 | 3.47 | 1.123 | | |
| よく勉強をしている | 男 | 512 | 2.94 | 1.012 | -3.722 | *** | 489 | 2.97 | 1.051 | -5.348 | *** |
| | 女 | 484 | 3.17 | .987 | | | 474 | 3.33 | .999 | | |

t検定 +P<.01 **P<.01 ***P<.001

水準で、また6年時では10項目中9項目が0.1%水準で女兒の平均値が有意に高く、学童期の子どもの日常生活に対する母親の意識に性差があるということが明らかになった。

2) 子育て観について

母親の子育て観に関しては3年時、6年時いずれにおいても性差は見られなかった。つまり学童期では子どもを育てるということに関して、子どもの性による違いは見られなかった。

3. 父親の意識との比較

1) 子どもの日常生活について

母親の子どもの日常生活について意識を父親の意識を比較したものを表4に示す。これによると、3年時では5%水準の有意差が見られた項目は「出来事を話す」「よく会話する」であり、6年時では「本を読む」であり、いずれも母親の得点が父親よりも高かった。

2) 子育て観について

母親の子育て観を父親の子育て観と比較したも

表4 子どもの日常生活についての父親・母親比較

| 項目 | 親 | 3年時 | | | | | 6年時 | | | | |
|----------------------|----|------|------|-------|-------|----------|-----|------|-------|-------|----------|
| | | 度数 | 平均値 | 標準偏差 | t | 有意確率(両側) | 度数 | 平均値 | 標準偏差 | t | 有意確率(両側) |
| 学校での出来事をよく話す | 母親 | 1000 | 3.85 | .928 | 2.106 | * | 966 | 3.85 | 1.002 | 1.635 | n. s. |
| | 父親 | 44 | 3.55 | .975 | | | 41 | 3.59 | 1.117 | | |
| 親子でよく会話をする | 母親 | 1001 | 4.05 | .795 | 2.050 | * | 968 | 4.06 | .847 | 1.186 | n. s. |
| | 父親 | 44 | 3.80 | .904 | | | 41 | 3.90 | 1.020 | | |
| お手伝いをよくしてくれる | 母親 | 1001 | 3.34 | .969 | 1.643 | n. s. | 968 | 3.37 | 1.020 | .640 | n. s. |
| | 父親 | 44 | 3.09 | 1.007 | | | 41 | 3.27 | 1.141 | | |
| 家族で外出することを好む | 母親 | 1000 | 3.97 | .936 | 1.847 | + | 967 | 3.80 | 1.010 | .549 | n. s. |
| | 父親 | 44 | 3.70 | 1.025 | | | 41 | 3.71 | 1.146 | | |
| 親の行動に興味を持っている | 母親 | 1000 | 3.83 | .879 | 1.907 | + | 967 | 3.69 | .937 | 1.690 | + |
| | 父親 | 44 | 3.57 | .998 | | | 41 | 3.44 | 1.141 | | |
| 弟妹や小さい子どもの面倒をよく見てくれる | 母親 | 994 | 3.60 | 1.043 | 1.883 | + | 958 | 3.61 | 1.104 | .134 | n. s. |
| | 父親 | 44 | 3.30 | 1.002 | | | 39 | 3.59 | 1.019 | | |
| 天気の良い日は戸外で良く遊ぶ | 母親 | 1001 | 4.04 | .961 | 1.522 | n. s. | 968 | 3.72 | 1.088 | .501 | n. s. |
| | 父親 | 44 | 3.82 | 1.105 | | | 41 | 3.63 | 1.113 | | |
| 友達をよく家に連れてくる | 母親 | 998 | 3.30 | 1.139 | 1.045 | n. s. | 965 | 3.09 | 1.136 | .387 | n. s. |
| | 父親 | 44 | 3.11 | 1.083 | | | 41 | 3.02 | 1.037 | | |
| いろいろな本をよく読んでいる | 母親 | 999 | 3.26 | 1.103 | 1.402 | n. s. | 965 | 3.24 | 1.151 | 2.109 | * |
| | 父親 | 44 | 3.02 | 1.023 | | | 41 | 2.85 | 1.038 | | |
| よく勉強をしている | 母親 | 999 | 3.05 | 1.006 | .323 | n. s. | 966 | 3.15 | 1.040 | .749 | n. s. |
| | 父親 | 44 | 3.00 | 1.012 | | | 41 | 3.02 | 1.129 | | |

t検定 +P<0.1 *P<0.05

表5 子育て観についての父親・母親比較

| 項目 | 親 | 3年時 | | | | | 6年時 | | | | |
|---------------------------|----|------|------|-------|--------|----------|-----|------|-------|--------|----------|
| | | 度数 | 平均値 | 標準偏差 | t | 有意確率(両側) | 度数 | 平均値 | 標準偏差 | t | 有意確率(両側) |
| 自分は子どもをうまく育てていると思う | 母親 | 992 | 2.77 | .786 | -1.749 | + | 964 | 2.90 | .821 | -.539 | n. s. |
| | 父親 | 44 | 2.98 | .731 | | | 41 | 2.98 | .935 | | |
| 子どもの寝顔をみてかわいいと思う | 母親 | 1001 | 4.73 | .534 | .249 | n. s. | 967 | 4.68 | .598 | 1.723 | + |
| | 父親 | 44 | 4.70 | .668 | | | 41 | 4.51 | .675 | | |
| 子育てで、どうしたらいいかわからなくなることがある | 母親 | 1001 | 2.90 | .944 | 1.830 | + | 967 | 2.89 | .963 | 1.352 | n. s. |
| | 父親 | 44 | 2.64 | 1.080 | | | 41 | 2.68 | 1.059 | | |
| 子どもは結構一人で育っていくものだと思う | 母親 | 1000 | 2.79 | .865 | -1.060 | n. s. | 967 | 2.77 | .951 | -.399 | n. s. |
| | 父親 | 44 | 2.93 | .950 | | | 41 | 2.83 | 1.093 | | |
| 自分一人で子育てをしているという圧迫感を感じる | 母親 | 998 | 2.09 | .903 | 1.826 | + | 964 | 2.08 | .916 | 1.746 | + |
| | 父親 | 44 | 1.84 | .834 | | | 41 | 1.83 | .803 | | |
| 子育てによって自分が成長していると感じる | 母親 | 999 | 3.88 | .947 | 1.973 | * | 967 | 3.92 | .936 | .790 | n. s. |
| | 父親 | 44 | 3.59 | .871 | | | 41 | 3.80 | 1.054 | | |
| 子どもを育てるために我慢ばかりしている | 母親 | 998 | 2.23 | .736 | -.980 | n. s. | 966 | 2.19 | .768 | .786 | n. s. |
| | 父親 | 44 | 2.34 | .776 | | | 41 | 2.10 | .735 | | |
| 子どもがいることで、生活の中にゆとりを感じる | 母親 | 996 | 3.14 | .998 | -2.188 | * | 966 | 3.27 | 1.002 | -2.437 | * |
| | 父親 | 44 | 3.48 | .952 | | | 41 | 3.66 | .855 | | |
| 子育てで毎日ぐたぐたになる | 母親 | 1001 | 2.47 | .867 | 1.793 | + | 967 | 2.36 | .899 | 2.519 | * |
| | 父親 | 44 | 2.23 | .859 | | | 41 | 2.00 | .671 | | |
| 子どもに感情的に接してしまう | 母親 | 998 | 3.07 | .838 | 1.643 | n. s. | 966 | 2.98 | .839 | .217 | n. s. |
| | 父親 | 44 | 2.86 | .668 | | | 41 | 2.95 | .893 | | |
| 毎日はりつめた緊張感がある | 母親 | 998 | 1.84 | .789 | .540 | n. s. | 968 | 1.79 | .777 | .313 | n. s. |
| | 父親 | 44 | 1.77 | .859 | | | 41 | 1.76 | .538 | | |

t検定 +P<0.1 *P<0.05

のを表5に示す。これによると、3年時では6項目に5%水準での有意差あるいは10%水準で傾向が見られ、母親が高い項目は「どうしたらよいかわからなくなる」「圧迫感を感じる」「自分が成長している」「くたくたになる」であり、父親が高い項目は「うまくそだてている」「ゆとりを感じる」であった。また、6年時では4項目で5%水準の有意差あるいは10%水準の傾向が見られ、母親が高い項目は「くたくたになる」「寝顔がかわいい」「圧迫感を感じる」であり、父親が高い項目は「ゆとりを感じる」となっていた。

IV. 考察

今回、母親が学童期の子どもの日常をどのようにとらえていたか、また、子育てをどのように感じていたかについて、まず始めに、子どもの学年が学童期中期の小学3年時と学童期後期の小学6年時での比較調査を進めた。

それによると母親は3年児は外で活発に遊び、親に興味を持ち、家族と共にいることを好み、友だちを家に連れてくるなど、6年児に比べて家族や家庭との繋がりが強いと感じていた。また、子育て観は3年児では、くたくたになる、感情的に接するなどストレスを感じている様子が伺える。

これに対して6年児の日常生活では、よく勉強をしていると感じ、子育て観では、うまく育てている、ゆとりを感じるというように、子育てに対するストレスが軽減されている様子が伺える。

このことは、はじめにでも述べたように学童期中期3年時は、乳幼児期に比べ身体的保護の必要性は軽減されるものの、母親は子どもの世話に時間を掛け、欲求により早く反応していることを現しているものと思われる。従って、3年時の子育て観は、大変だという感じがあったものだと考える。それが6年時になると母親は3年時よりも、よく勉強をしているなど、子どもの自立、自律した姿を捉えており、その姿は、母親自身の子育て観に反映して、うまく育てている、ゆとりを感じる、というように余裕と自信に繋がっていると考える。したがって、この時期には乳幼児期から続いた子どもの身体的保護として世話をするという感覚から脱却するのではないかとと思われる。

学童期中期3年時から学童期後期6年時にかけて、母親は子どもが親や家族の手を煩わせず、勉強を初め自律的に行動するようになることで、育児がストレスから育児への自信に変化していくものと考えられる。

次に、母親が捉えた子どもの性差について、子どもの日常生活においては3年時、6年時ともにほとんどの項目で男児、女児の違いを感じていた。その内容を見てみると、学校での出来事を話す、親子で会話する、手伝いをする、家族での外出を好む、弟妹の面倒をみる、いろいろな本を読んでいる、よく勉強している、であり、家庭内での会話や手伝い、弟妹の世話、家族との外出を好むなど、女児は男児に比べて家族や母親との距離が近いと感じていることがわかる。

また、学童期においては、本を読む、勉強をするという学習活動についても女児が高く、逆に、天気の良い日は戸外で遊ぶ、友だちを家に連れてくるなどの遊び活動に関しては男児の方が多くと捉えられている。教育現場では男女平等意識の達成の第一歩として、男女同様の活動や男女の役割分担の廃止が進められている中、家庭内において母親は女児の方が、手伝いをし、弟妹の面倒をみる、と感じている。このことは、家庭での母親の期待に子どもが答えているということも考えられ、現代の母親にも家庭生活の中では、男子は外で仕事、女子は家庭で家事という日本の伝統的な感覚が存在している可能性が高いのではないかと考える。この点においては、児童期後期の第二次性徴期に性による変化が顕著になる時期においても、男女の活動や役割の同等性を求める教育現場との乖離を表しているように思われる。

最後に母親と父親の比較では、子どもの日常生活では3年時に父親よりも母親との会話が多いことが示唆された。また、子育て観に関しては子どもがいることで父親は母親に比べ「ゆとり」を感じ、母親は「くたくたになる」「感情的に接する」など、両親の家庭内での子育て観に差があることが分かった。この点について上田(1996)は「父親は遊び相手になり身体的遊びを通して接触し友だちのようにかかわることが多い」と述べている。つまり、学童期の子どもは日常的に母親と過ごす時間が長く、母親は

子どもの行動や様子に関する問題解決に直接的な責任感や対応を迫られることが多いのに対して、父親は仕事から離れた限られた時間の中の遊びという感覚の中で子どもと触れ合っている可能性が高いことから両親の子育て観に違いが生まれるのではないだろうか考える。

V. おわりに

今回は学童期中期から後期にかけての、母親の子どもの日常生活意識と子育て観の変化について検討した。母親は学童期中期の段階では、幼児期と同じように世話をしている状況が伺えるが、後期になると子どもが自立的・自律的に成長し、それに伴って母親自身が自分の生活にゆとりや自信を持つようになると考える。つまり、子どもと親の距離が次第に離れて、児童期後期においては親の子どもに対する直接的な影響が減少することが考えられる。このことは、学童期前期までは見出だされた母親の子育て支援としてのブックスタート経験の有無による子どもの日常活動の差が、学童期後期には見出されなかった一つの原因だと考えられる。

また、子どもの性による差として、母親は日常生活場面で女兒との距離が近く、学童期中期にはすでに、手伝いや世話などの、いわゆる母親的役割を男児よりも女兒が取っていると感じている。

また、父親との子育て観には差が見られ、母親は父親よりもストレスを感じている様子が示唆され、家庭内では子どもも親も性による役割分担が存在している様子が伺われた。

今回の結果は、一部地域における調査ということで地域性を現しているということも考えられるが、それでも縦断的に継続して変化を捉えていくことには意義があると考えられる。

また、各親子の関係性を対応させて検討することは難しいが、今後、中学生になり子どもの生活が、より学校、学業中心になることが考えられる中で母親が子どもの日常をどのように捉え、どのような子育て観を持つようになるのか、また、子どもは体験学習をはじめとして幼児や様々な人や物と接する中でその生活意識が親のブックスタート経験の有無によって異なるのかどうかを平均値比較ということで

引き続き検討していきたいと考える。

謝辞：本研究では、小郡市ブックスタート事業3年生児童、6年生児童の保護者データを使用させていただきました。小郡市長をはじめとして質問紙作成、配布、回収を頂きました小郡市ブックスタート事業関連の皆様にお礼申し上げます。

VI. 文献

- 秋田喜代美. (2008). 読む力が育つ授業作りの課題. 第19回国語教育研究実践交流会報告.pp61-67
- 第1回ブックスタート全国大会. (2002). 特定非営利活動法人 ブックスタート支援センター. 読書環境意識調査報告書. (2001). 恵庭子ども読書推進ネットワーク開発実行委員会.
- 原崎聖子, 篠原しのぶ. (2005). 母親の乳幼児養育に関する調査-ブックスタート事業との関わりから-. 福岡女学院大学紀要人間関係学部第6号.59-68.
- 原崎聖子, 篠原しのぶ. (2006). 母親の乳幼児養育に関する調査-ブックスタート事業18ヶ月児を中心に-. 福岡女学院大学紀要人間関係学部第7号.23-28.
- 原崎聖子, 篠原しのぶ, 安永可奈子. (2007). 母親の乳幼児養育に関する調査-ブックスタート事業36ヶ月児を中心に-. 福岡女学院大学紀要人間関係学部第8号.73-82.
- 原崎聖子, 篠原しのぶ, 彌永和美. (2010). 就学前児の家庭における読み聞かせ環境の調査-ブックスタート事業との関係-. 福岡女学院大学紀要人間関係学部第11号.53-60.
- 原崎聖子, 篠原しのぶ, 彌永和美. (2012). ブックスタート追跡調査からみる親子関係の特徴と学童期への影響について. 福岡女学院大学紀要人間関係学部第13号.29-34.
- 原崎聖子, 篠原しのぶ, 彌永和美, 渡邊晴美. (2013). ブックスタート追跡調査からみる保護者の意識と学童期への影響について-小学校3年生を対象として-. 福岡女学院大学紀要人間関係学部第14号.15-25.
- 原崎聖子, 篠原しのぶ, 彌永和美, 渡邊晴美. (2015). 学童期における生活意識の追跡調査-小学3年

時と6年時の比較－.福岡女学院大学紀要人間関係学部第16号.19-23.

原崎聖子,篠原しのぶ,彌永和美,渡邊晴美.(2016).
ブックスタート経験が保護者及び児童に与える影響－小学6年時追跡調査－.福岡女学院大学紀要人間関係学部第17号.61-68.

文部科学省.(2010).小学校学習指導要領解説
総則編.pp.37,52-55,69-70.東洋館出版.

NPOブックスタート(編).(2010).「赤ちゃん
絵本をひらいたら」-ブックスタートはじまりの10
年-.岩波書店.

NPOブックスタート(編).(2014).「ブックスター
トがもたらすもの」に関する研究レポート.NPO
ブックスタート

NPOブックスタート Bookstart Japan

<http://www.bookstart.or.jp/> 2016-09-30.

大平勝馬(編).(1983).新版児童心理学.
pp.51,62,82,90-94.建帛社

上田礼子.(1996).生涯人間発達学 p. 149